

Title	編集後記
Sub Title	
Author	金子, 晋丈(Kaneko, Kunitake)
Publisher	慶應義塾大学デジタルメディア・コンテンツ統合研究センター
Publication year	2025
Jtitle	慶應義塾大学DMC紀要 (DMC review Keio University). Vol.12, No.1 (2025. 3) ,p.66- 66
JaLC DOI	
Abstract	
Notes	
Genre	Article
URL	https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=KO32002001-00000012-0066

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the Keio Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

編集後記

金子 晋丈

慶應義塾大学 DMC 研究センター副所長

慶應義塾大学理工学部准教授

DMC 紀要第 12 号をお届けします。

本年度のシンポジウムは、これまでの情報流通や知の流通を担ってきた図書館に携わる研究者を中心に、デジタル時代の知の流通とはどうあるべきか、その論点が何なのかについて議論をしました。本号に収録したシンポジウムの記録をご覧いただければ、講演とパネルディスカッションで言葉として表現された課題のみならず、さまざまな問題提起が読者のみなさまにも巻き起こり、シンポジウムの雰囲気を擬似的に体験できるのではないかと思います。

改めて、デジタル時代の情報との向き合い方や情報の作り手、そして受け手がシステムを介してどのような情報に関する生態系を作り上げていくのかに直面する時間でもありました。決して 1 回のシンポジウムで全てを話し切れるわけでも解決できるわけでもありませんが、こういったシンポジウムでの議論に基づき、DMC の今後の研究活動や、また社会とともに次世代の知の流通をどのようにすべきか、我々一人ひとりが考えなければならぬと思っています。

DMC の今後の活動にご期待ください。